

渉成園

渉成園は、属している東本願寺の歴代門首の隠退所として利用されてきた。この庭園は、17 世紀半ばに将軍・徳川家光（1604-1651）が東本願寺に寄進した土地に作られた。設計したのは儒学者・詩人・書道家の石川丈山（1583-1672）で、中国の詩人・陶淵明（365-427）の作品から名前を取った。

池を中心とした約 8 エーカーの敷地には、塀の外の風景を取り込んだものを含むいくつかの景観が用意されており、庭園内にある散策路から楽しむことができる。庭園内の建物には、かつての住居のほか、茶室や接待所などがある。渉成園の伝統的な機能のひとつである東本願寺を訪れた客をもてなすための施設になっている。

庭園は何世紀にもわたって数回焼失しており、最近では 1864 年に焼失した。現在の庭園とほとんどの建物は、1890 年代に再建されたものである。渉成園は、1936 年に日本政府によって名勝に指定されたが、最近では植物や動物の多様性も注目されている。園内にはいくつかの鳥、蝶やトンボが生息しており、秋に青紫色の花を咲かせるミズアオイ（*Monochoria korsakowii*）などの珍しい植物も見ることができる。